

〈お詫びと訂正〉

2021年10月実施小5第3回合判模試におきまして、以下の誤植がありました。

国語 4 設問文

(誤) 「の—線部の」 → (正) 「**で使われている**」

- 4 次の①～④の—線部の敬語の表現を説明したものととして、最も適当なものをあとのア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度使ってもかまいません。
- ① どうぞ思う存分ぞんぶんいただいでください。
 - ② ご注文をうけたまわります。
 - ③ 先生は三時にまいるそうなので、もう少し待とう。
 - ④ もうお子さんの絵はごらんになりましたか。
- ア 正しい尊敬語が使われている。
イ 正しい謙譲語が使われている。
ウ 尊敬語を使うべきところで誤って謙譲語が使われている。
エ 謙譲語を使うべきところで誤って尊敬語が使われている。

で使われている

受験生及び保護者、関係者の方々に多大なご迷惑をおかけしたことを深く反省し、お詫びするとともに、今後このようなことが起らないよう作問業務のチェック体制を徹底し、再発防止に万全を期す所存でございます。

株式会社 首都圏中学模試センター

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	ウ	21
問二	ⓧ	
	エ	22
	⓪	
問三	ア	23
A ↓ C ↓ B ↓ D		24

問四	イ	25
問五	ア	26
問六	無性にピア	27

問七			
で	香	と	母
い	音	を	親
た	の	怒	に
こ	こ	ら	レ
と	と	れ	ッ
が	を	る	ス
わ	心	と	ン
か	配	思	に
っ	し	っ	行
た	不	て	か
か	安	い	な
ら	な	た	か
。	気	の	っ
	持	に	た
	ち	、	こ

問八	エ	32
問九	エ	33
問十	胸の奥底で	34
問十一	ア	35

2

問一	ウ	36
問二	ⓐ	
	ア	
	ⓑ	
	ア	
	ⓒ	
	イ	
	ⓓ	
	イ	37

問三	保存保管の能力	38
問四	イ	39
問五	エ	40
問六	ウ	41

28
29
30
31

	6	5	4	3		
⑥	①	①	①	①	問九	問七
暴風	停留	ア	ウ	十	A	り
64	59	55	51	47	勉	っ
⑦	②	②	②	②	強	し
復元	領海	イ	イ	四	し	ん
65	60	56	52	48	、	べ
⑧	③	③	③	③	知	ん
貧	余白	ウ	ウ	百	B	ん
66	61	57	53	49	忘	問八
⑨	④	④	④	④	却	ア
燃	綿花	ア	ア	三	(答)	42
67	62	58	54	50	問十	43
⑩	⑤				工	
修	逆転				問十一	
68	63				ウ	
					44	
					45	
					46	

(配点)

{ ①〔問二〕各2点、〔問七〕8点、他各5点 }
 { ②〔問七・十〕各2点、他各5点 } 計150点
 { ③④⑤⑥各2点 }

【解説】

1 瀧羽麻子の『ありえないほどのさいオルゴール店』（幻冬舎）から出題しました。自信がゆらぎ、自分の進むべき道に迷った香音が、ふらりと立ち寄ったオルゴール店での出会いをきっかけに自分を取り戻す物語です。本文は、回想シーンが挟まれるために、時系列通りにできごとが書かれていません。物語の流れと、香音の気持ちの移り変わりを丁寧に読み取りましょう。

問一 A2 関係づけ 知識

①の後に「気を悪くしたのかもしれない」とあるので、アの「いらいら」は不適切です。②の直後に「見つめられ」とあるので、しつこく繰り返して言うさまをいう、イの「くどくど」は入りません。③の直前に「返事を待たずに」とあることから、店員さんに何か考えがあつて、それをすぐに実行しようとしていることが分かります。ですから、エの「さすが」は不適切です。

問二 A2 知識 比較

①「気前」とはさつぱりした気性のこと。特にお金や物などをおしげもなく人にあたえる性質のことを言います。「ただで持つていっていいと…すすめてくれた」ということもヒントになります。

②「洗いざらい」とは残したり隠したりせず、すべて出さず。③「このひとになら、わかつてもらえるのではないか：香音の胸の奥底で響いている音楽をみごとに聴きとつてみせた、彼になら」とあることから、香音は店員さんに心を開き、

彼をとても信頼していることがわかります。このことをヒントに考えましょう。

問三 B1 分類

物語を読むときは、それぞれの場面（登場人物・時間・場所）をしつかり想像しながら読みましょう。そして、その中でおきるできごと、それに伴う心情の変化をおさえていくことが大切です。A・Cはオルゴール店での店員さんと香音のやりとり、B・Dは南先生の家の門の前での母親と香音のやりとりが書かれています。Aは店員さんに讃美歌が流れる一つ目のオルゴールを出してもらったこと、Cはバイエルが流れる二つ目のオルゴールを出してもらい、店を飛び出したことが書かれています。Bは母親と出くわしたことで、Dは母親に自分の決心を語ったことが書かれています。ですから、流れはA↓C↓B↓Dになることがわかります。Cのできごとで、香音の気持ちに大きな変化があつたことを読みとりましょう。

問四 B1 理由 比較

——線①直後に「ついさつき、教会でひさびさに思い返していた曲だった」とあることに注意しましょう。この讃美歌は、香音が少しも否定されることなく、何も考えずにピアノを弾くことだけを楽しめていた「安らかな日々」の思い出の曲です。その曲のオルゴールを、初めて会った店員さんが選びだしてきたことに香音は驚いているのです。ア直後に「讃美歌？」とあることから、音のよさよりも、その曲自体に驚いていることが分かります。ウ——線①を読むと、メロディー

が流れてすぐに驚いていることがわかります。選択肢の「懐かしい讚美歌を聞くうちに：気づいた」では時間がかかりすぎています。エ「賞賛を浴びる重圧に負けまい」「練習に打ち込んでいた」などの表現が「安らかな日々」という本文中の表現と合わないので不適切です。

問五

B1 理由 比較

——線②の直前にある、「いい音ね。不意に、南先生の声が香音の耳もとで響いた」に注目しましょう。香音は南先生のレッスンをすっぽかして、このオルゴール店にいます。そして、南先生の「いい音ね」は、Dにあるように、香音が『『そういう世界』に飛びこもうと』『自分で決め』るきっかけになった大事な言葉です。自分を認めてくれた南先生のレッスンをすっぽかしてしまっただけという申し訳なさでいたたまれなくなっているのでしょうか。このことから答えはAということになります。イ「母親にばれたらどうしよう」という気持ちはここからは読み取れません。ウ「認めてもらいたいがためにピアノに打ち込んだ」また、エ「あきらめた方がいいと言われた」は本文中には示されていません。

問六

B1 具体化

時系列でいうと、Bの前はCであることに注意しましょう。——線③の香音の気持ちのヒントは、Cに書かれていると考えられます。Cの最終段落に、「無性にピアノを弾きたかった。一刻も早く鍵盤にさわりたいたてたままなかった。」という香音の気持ちが具体的に書かれています。

問七

B2 理由 推論

驚くのは「くだと思っていたのに、実際は：だった」時です。母親が「見たこともないようなこわい顔」と表現されているように、香音は母親の声を聞くまで、母親がレッスンをすっぽかしたことを怒っていると思いきや、母親が「頭の上がり、実際は、『どれだけ心配したと思ってるの？』頭の上から降ってきた声は、頼りなく震えていた。」とあるように、母親は心配で、不安な気持ちでいっぱいになっていました。この二つの内容を「」の形に落とし込んで書くと書きやすいでしょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問八

B1 具体化 比較

——線⑤の直後に「お願い。正直に教えて。お母さん、怒らないから。香音のやりたいようにやってほしいと思ってる」とあるように、母親は香音の本心を聞きたい、母親の意見ではなく、香音の選択を尊重したいと思っていることがわかります。ですから、——線⑤の母親の姿勢は、対等な立場で香音の意見を聞きたいという気持ちの表れだと考えられます。イ「意見を交わしたい」のではなく、香音の意見を聞きたいのです。ア「もどかしく、またさびしい」ウ「なんとか許してほしい」気持ちもないとはいえませんが、この母親の行動からは香音の本心をまず聞いておきたいという気持ちの方がよく表れています。

問九

B1 具体化 比較

讚美歌（幼いころ、厳しい評価にさらされず、好きなように弾いていたころの思い出の曲）のオルゴールか、バイエル（香音の胸の奥底で響いている音楽）のオルゴールかを選ぶ場面です。ですから、この「耳をすます」は自分の心の声を聞くようとしている、ということですが、そしてどちらのオルゴールを選択するか、ということは香音のピアノへの向き合い方を選択することでもあります。これらことからア「どちらのオルゴールがすばらしいか：音を聞き比べよう」ウ「音色を楽しもう」という、「聞く」そのものの意味の選択肢は不適切です。イこの場面で「母親に：打ち明けよう」という決心はついていません。

問十

B1 具体化

問九も参考にして考えましょう。バイエルは、店員さんが新しく出してくれたオルゴールの曲です。そして、その二番目に出してくれた曲のことを香音は、「香音の胸の奥底で響いている音楽」と言っています。

問十一

B1 置換

南先生は「そういう世界」のことを、「誰もが一位になれるわけじゃない」が「一位になるためだけに弾くわけでもない」と説明しています。また、香音は、幼稚園のころのように、ほめられ楽しくピアノを弾くというよりも、「もつとまくなりたい」「いい音を取り戻したい」と「そういう世界」で頑張ることを決心しています。そのことから考えると、「そういう世界」は厳しい評価にさらされ、競争の激しい世

界であるが、自分の音を追い求める幸せがある世界なのだとわかります。イ「努力をつづけていれば誰か認めてくれる人がある」ウ「一位になるというただ一つの目標」の部分が不適切です。またエ「他人からの評価にさらされず自分の世界で音を楽しんでいれば十分に満足感を得られる」というのは、香音が幼稚園のころのピアノへの向き合い方です。

2

外山滋比古『思考の整理学』（筑摩書房）から出題しました。コンピュータの登場によって、人間の頭の使い方は大きく変わってきました。頭の使い方を知識をため込む「倉庫」、新しいことを創造する「工場」にたとえています。その二つの対比に注目しながら読みましょう。そして、「倉庫」としての頭にとっては敵とされていた「忘却」ですが、新しい物事を考え出す効率をよくする上で、不要になった知識を整理、処分することは非常に重要な働きだ、と説明されています。

問一

A2 関係づけ 知識

①直前に「あれもこれもいろいろなことが一時に殺到する」とあるので、イ「じりじり」・エ「ちよろちよろ」は不適切です。②「場ふさがぎが」③「しているのは不都合」とあるので、ア「すつきり」は不適切です。

問二

B1 関係づけ

「知識を…蓄積する」のは「倉庫」、それに対して「創造的人間」に求められる、「新しいことを考え出す」のは「工場」です。②コンピュータは、「いったん入れたものは決して

失わない」とあるので「倉庫」です。④「やたらなものが入っているのは作業能率が悪い」のは「工場」です。

問三 **B1** 具体化

「こういう人間頭脳」は「倉庫としての頭」のことです。線①の後にコンピュータの「すばらしい機能」として、「いったん入れたものは決して失わない。：整理も完全である」と説明されています。「いったん入れたものは決して失わない」機能を言い換えた表現を本文中から探しましょう。

問四 **B1** 具体化 比較

線②の「コンピュータ人間」は「本もののコンピュータにかなうわけがない」とあることから、「コンピュータ人間」は「知識をどんどん蓄積する」人、「人間の頭を倉庫として使」っている人間のことだと考えられます。ア「何か創造する」のはコンピュータができないことです。

問五 **B1** 具体化 比較

線③の直前にある「そのこと」は何かを創造する上で忘却は重要だということです。ですから、「創造的人間にとつての忘却の重要性を分らず、知識をため込んでいる」というようなことが書かれている選択肢を選びましょう。アは筆者の主張と重なり、ここで批判されている内容とは異なります。イ「テストで問われるような知識は必要ない」の部分が不適切です。ウ「習得した知識をいかに順序良く並べ整理する」は「倉庫」の整理です。

問六 **B1** 具体化 比較

「偏見」とはかたよつたものの見方、間違つた考え方のことです。筆者は「忘却」のことを「工場の整理」と説明し、「工場として能率をよくしようと思えば、どんどん忘れてやらず。ですから、ここでいう改めるべき「忘れること」に対する偏見」とは、従来の「忘れる」ことはマイナスだ、危険だ、という見方だと考えられます。

問七 **A1** 知識

「忙しい」という字は、「卜(りっしんべん)」と「亡」という字からなっています。りっしんべんが付く漢字は、「快」「性」「情」など、心の動きなどに関するものが多いです。

問八 **B1** 理由 比較

思考するためには頭の中が整理されることが大事だということ、「睡眠」は「自然忘却である」ことをおさえておきましょう。朝が思考に適しているのは、睡眠によって、自然に頭の中が整理されているからです。イ・ウ・エは睡眠による忘却作用にふれられていません。

問九 **B1** 具体化 比較

「忘却はこの不可欠な排泄に当る」という文が大きなヒントです。ここから、「食べものを食べる」は勉強すること、「消化して吸収すべきものを吸収」は知識を習得すること、「そののこりは体外へ排泄する」は不要な知識を忘却することだと読み取れます。また、——線⑦の直後の段落に、

リード文と似た、「勉強し、知識を習得する一方で、不要になつたものを、処分し、整理する」という表現があることにも注目です。書きぬき問題において、リード文に似た本文の表現はヒントになることもあります。

問十 **A2** 知識 関係づけ

「目のかたき」とは「何かにつけてにくく思う人・こと」という意味です。それぞれの選択肢の言葉の意味は、ア「自分勝手」：自分に都合のよいことしか考えないさま。わがまま。イ「地獄耳」：人の秘密をすぐにききつけること。ウ「首尾一貫」：初めから終わりまで考えや行いなどがすじまちだつていて変わらないこと。エ「一目散」：わき目もふらず走る様子です。

問十一 **B1** 推論 比較

選択肢を丁寧に読み、本文との違いを見つけていきましょう。ア「知識を蓄えるのはコンピューターに全て任せてしまう決断をすべき」という部分が不適切。本文には「人間の頭はこれからも、一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならない」とあります。イ「日々に忙殺：睡眠がとれず」は本文に示されていません。エ「知識をため込む：日本人」とありますが、本文中では日本人についての話は出てきていません。

3 **A1** 知識

四字熟語の問題です。漢数字を使う四字熟語はよく問われますので、そこに注目していろいろな四字熟語を確認しておくのもいいですね。

- ① 十人十色：人によって好みや考え方が違うこと。
- ② 四角四面：真面目すぎてかたくなる様子。
- ③ 百発百中：鉄砲などをうてば必ず命中すること。予想や計画などが全部あたること。
- ④ 三三五五：人がばらばらに散らばっている様子。

4 **A1** 知識

敬語の問題です。相手側の行為には、尊敬語、自分側の行為には謙讓語を使います。

- ① 「食べる」のは相手ですから、ここは尊敬語の「めしあがる」を使い、「めしあがって」とするのが正しい敬語の使い方です。「いただく」は「食べる」の謙讓語です。
- ② 注文を「引き受ける」のは自分で、謙讓語の「うけたまわる」を使っているので、これは正しい謙讓語の使い方といえます。
- ③ 「来る」のは先生ですから、尊敬語の「いらっしゃる」を使うのが正解です。「まいる」は「来る」の謙讓語。
- ④ 絵を「見る」のは相手で、尊敬語の「ごらんになる」を使っているので、これは正しい尊敬語の使い方といえます。

5 **A1** 知識

多義語の問題です。同じことばでもいろいろな意味を持つことばの代表例として「かける」があります。他にもどんな多義語があるか自分で考えてみましょう。

- ① ラジオを「かける」は、ラジオの電源を入れて音を鳴らす、ということなので答えはア。イの「しめる・閉じる」は「かぎをかける」というとき、ウの「他のものの上にお

く」は「ふとんをかける」というときの意味です。

② 議題を会議に「かける」は、議案を持つていき、会議の場で公にして話し合ってもらう、ということなので、正解はイ。アの「口に出して声をおくる」は「声をかける」というとき、ウの「たくらんでおとしいれる」は「わなにかける」というときの意味です。

③ 痛い目を「みる」は、ひどい体験をする、ということなので、答えはウ。アの「物事をとらえ判断する」は「味をみる」「人を見る目がない」というとき、イの「世話をする」は「子どもの面倒をみる」というときの意味です。

④ ねじが「あまい」は、ねじがゆるくしまっている、ということなので、答えはア。イの「蜜や砂糖のような味がする」は「チョコレートはあまい」というとき、ウの「厳しさに欠けている」は「子どもにあまい親」というときの意味です。